京城新聞

●葉錢銀貨及銅貨

葉錢は其弊害舊白銅貨の如く甚しからずと雖も地方商民の葉錢を信ずること厚大なるを以て急々處置を行ふ時は經濟上重大なる影響を及すの恐れあるに依り前期に於ては先づ還收の準備を行ふに止るの方針を採り專ら商民をして葉錢の準備補助貨にして多額の取引に使用すべき者にあらざる事と新貨の便利にして信用すべき事を知悉せしむるに盡力して還收に對して積極的方法を採らざりし故に葉錢の還收額は僅かに三万貫に過ぎざりしなり

本期に入つても尚且前期の方針を襲用して各種盡力したることあるを以て商民は稍々新貨使用に慣熟せられたり三月頃よりは米穀買出期已に過ぎたるに因りて葉錢相場は亦下落の兆候を示したるを以て四月に至りて財政顧問の内命に依り二十割の公定價格を以て各支金庫に於て葉錢の買上を行ひたり其結果多少の還收するを得たるも幾許ならずして海外輸出に因りて相場騰して二十割を超へ買上は實際中止の狀況となり還收額は僅かに十九萬餘圓に過ぎざるなり前期に於て銅價の騰貴に依りて葉錢が海外に輸出せられたるもの少からざりしことは既に報告せし所なるも本期に入りては葉錢の相場騰貴せしに拘はらず輸出は益增加の狀況なりしが七月に至りて銅貨下落の爲め輸出は全く止たり此上七ヶ月間に於ける輸出額は九十六万餘圓にして葉錢は約百萬貫の減少なり

葉錢を國庫に收納するは十五割を以てするの規定なるに實地の相場は二十割を超すの狀況なるを以て國庫收納に依りて還收したるもの殆んど無かりし

葉錢の外舊銀貨及舊赤銅貨の還收せられたるものなきにあらざるも其額が前期と同じく甚だ少きは第一流通額の少きに依りたるものにして舊赤銅貨の還收は一万八千圓にして流通額も尚且多少あるも本來大勢に影響あらず(第二回韓國貨幣整理報告)

●義州通信(一日)　内田生

△觀察府の移轉　寧邊の觀察府が當地に移轉することは再三報道せられたるが如く讀者の知る所なるが既に八月に移轉すべかりしを今日迄其運に至らざりし原因を聞くに從來觀察府に充つべき廳舍の我守備隊の營舍となり居たる爲め他の廳舍へ移轉せしむる等種々の準備に暇どりし由にて本月末漸く其移轉を了り昨日前觀察府の器具寧邊より到着終れり

▲觀察使以下の着任　前項の如く觀察府の器具は悉く昨日迄に其搬移を了したるが觀察使以下書記主事等も愈よ昨日午後新義州より南門に入り一日無事着任したり之より先當警察署及び府尹は城内人民に此旨を傳へたる所各洞人民は觀察使の來任は本府の爲め賀すべしとて來任の際は各所に緑門を設け國旗を揭揚し歡迎し各學校生徒は城内外に整列して之を迎へ近來稀れなる盛況なりし

▲淸人强盜の出沒　時漸く塞冷に向ひ鴨緑江對岸淸領方面にある無賴の徒當地に來り徘徊するは每年の例なるが本年も既に當地附近を横行し初め當地より四里なる舘里面には四五日前出沒したる形跡あり引續き新義州に於て淸國人の同一所爲の强盜兇器を以て人を傷けたる事件あり此急報に依り當地警察署前川刑事は嫌疑者四名を捕縛し尚ほ目下嚴重に取調べ中にて一面には當方面警戒中なり

俳句

白露集

●七印

岩面に鹿一聲や日は斜　三瓢

殺生の禁札朽てやればちす　可醉

秋聲に屈ふや吟の感深し　湖東

(三十二)　河合柳葉

侯爵は少しく不興顔に、

「うりや當家が斷念せよと云ふなら、致し方がないから斷念致さう、其代り予は其がために病氣を起して甚麼重病になるかも知れんが假令甚麼重病になつても彼の女を斷念せよと云のか。」

「奈何程りまして、決して左う云ふ理ではございませんが、何分にも餘り身分が違つて居りますゆゑ申上げたのでございますがうれがため重病など起されましては、何以てお屋敷へ申譯がございません、致しますると御前の思召は如何遊ばさうと有仰るのでございます。」

「予は彼の女を御側に置いて、歸京の節は家敷へ連れる所存だ。」

「恐れながら、それは御前のお辭ではございまするが、彼の女は浮川竹に身を沈めて居る遊女などではございません、苟にも京都では名を知られた宗匠の妹でございますして見ますると、假令奈何遊ばすに致しましても、奥方ならば奥方、お妾ならばお妾と、名を正して申込むで見ません事には、昔と違ひまして當今は金や權勢などは應荼の如く見做て居る輩もございますから、先方で何とお答へ致すか、これも一つの疑問でございます、御前のお心では奈何云ふ身分でお連れなさらうと有仰るのでございます。」

「奈何云ふ身分と申して、妾で先方が承知して下れりや妾でもよし、妾などは可厭だと云ふなら奥にでも、あれは先方の望次第で宜しい。」

「イヤ、然う云ふ御思召でございますなら能く解りましてございます、しからばこれから委細の事を認めまして、御屋敷の方から濟川を召寄る事に致しませう、其上でございませんと、私が一存で取計ひます譯に參りかねます、どうぞ此處四五日の御猶豫を願ひます。」

爲雅はやゝ厨重の氣味で、

「何と申す、屋敷へ申遣はして濟川を呼び寄せる、濟川のやうな昔氣質なものを呼び寄せてなるものか、それこそ冗らん格式だの系統だのと嚴格な事ばかり列べ立て、成就すべき事も破壞して了ふ、屋敷へは何事も暫く知らせずに置いて、貴樣の一量見で計つて置いて下れ。」

「ではございまするが、他の事でございますれば如何やうにも取計らひまするが、何を申しましても御家に對する一大事でございますれば、こればかりは私の一量見に計ひまする事は幾重にも御免を蒙ります。」

爲雅は餘程當惑の樣子で、寸時何事か思案に沈んで居られたが、やゝあつて、

「なる程お前の云ふのも有理の事だ、すると妾と云ふ事なら何も御室家に瑕が付くと云ふではなし、父上だつても側にお置きになつた位だから、母上だつて濟川だつて嚴しくは云ふ理がないゆゑ、妾と云ふことにして、お前の量見で取計らつて下れんか、さもなければ予は彼の女のために病氣が起る、その代りお前が此事を首尾克く計つて下れるなら、予もお前の望む事を何でも承いて遣はす、予が一生の賴みだ、どうぞ宜いやうに計つて下れ。」

只管賴むのであつた。

大山は此の懸を如何に處置するであらう。

京城新聞

選擧と公共心

代議制度を圓滿に行はんとすれば全体の利害に鑑て私情を放擲するの公共心なかる可らず、公共心なきの國民は決して代議制度を圓滿に運用する能はず、徒に小憤細故の爲に爭ひて全体の利害を度外視するが如きものは立憲國民の資格なきなり、正當なる輿論の前には名譽心も虛榮心も捨てゝ之に服從するの美德なかる可らず、自己が代議候補に洩れたる爲に憤り別旗幟を立てゝ同志打するが如きは尤も劣惡なる私情なり、斯る公共的精神なき輩の存する社會は決して健全なる自治体を組成する能はざるなり立憲國民の德性は自抑自制して共同的生活をなすにあり、私憤細故の爲に共同の精神を沒却するが如きは立憲の賊なり自治躰の破壞者なり、之れ輿論政治を解せざるの蠻人なり、立憲政治の圓滿に行はると行はれざるとは其國民の公共心をトするに足るなり。

立憲政治の最も圓滿に行はるゝ英國に於ける選擧を見るに、最大多數者の最大幸福を標準とし之が爲に自己の利害を犧牲に供するを躊躇せざるなり、國民既に共同生活の意義渾然として行はれ居るが爲なり、故に自己が候補者たらんとして申出るも多數者が之を肯せざれば直に多數者指定の候補者に賛同し、極力之を撰出するに努むるなり自己が排斥されたる爲に私憤を發し多數者指定の候補者に向て惡聲を放て反對するが如き非公共的の擧動をなすものなし、自己の役割の不足なるに不滿を抱き反激同志打するが如き偏狹なる輩は到底小屋掛芝居も打てざるなり、世に偏屈狹量にして公共心なきもの程困るものはなし、立憲制度の美妙なる運用は寛宏なる雅量と豊富なる公共心に依らざる可らず。

在韓民團議員の選擧期日は切迫せり、從て多少の競爭は免る可らざるも立憲國たる日本帝國民として陋劣なる行動をなすことなく飽迄嚴正なる態度を保ち、適當の候補者を撰擇して投票せざる可らず、小憤細故の爲に別旗幟を翻して同志相爭ふが如き愚を避けざる可らず、殊に今回は民長官撰令撤廢の如き在留邦人一般權利の消長に關する問題あり、全く輿論ありて此問題を解決するに適當の人物を撰擧することを肝要なり、在留民は宜しく公共心を發揮して其間些少の私情を挾むことなく靜寂に選擧を了すべし、私交的關係或は同鄕的關係の如きを以て公正なる撰擧を穢すことなく、帝國の大陸經營、在留邦人發展の大局を標準として適材を擧るの公明なる態度を採らざる可らず、斯の如くにして正々堂々撰擧を競はば勝敗共に光榮あり、陋劣なる競爭をなして勝者たるも何等の榮譽かあらん、唯識者の嘲笑を招くに過ぎざるのみ。

東京電報

阪谷男と藏相

阪谷男大藏大臣となるべしとの說あり。

拓殖韓國委員の放言

東洋拓殖株式會社韓國創立委員は語りて曰く日本にある日本人は在韓日本人とは其性質を異にせり日本にある人は親切なるも在韓日本人は猛虎の如く韓人の財產を橫奪するものあり拓殖會社創立の上は善良の人を入國せしめたしと云へり　(以上四日發)

農事試驗場長渡韓

農事試驗場長上田榮次郞御用有之韓國に差遣さる

鍋島侯渡韓

鍋島侯夫人と同伴にて今朝渡韓の途に上る　(以上五日發)

雜報

民籍と戶口調査

內部警務局に於て起草せし民籍法は目下參與官會議に附せられ統監府に於て調査中の由なるが同法の實施に關係ある全國の戶口調査は警察憲兵隊の協力にて實行する方針にて目下計畫調査中なりと云ふ

學部明年度の豫算（續）

▲私立學校の補助　公立普通學校の增設は多大の經費を要し韓國現今の財政にては困難なるを以て全國主要なる地點に在る私立學校五十を撰擇して私立普通學校に指定し此れに補助を與へて公立學校に類する設備をなさしむ計畫。

△教員の養成　目下教員の養成は京城なる師範學校に止まり一般の私立學校に要する教員及び別項の私立普通學校に對する教員の供給すら乏ふする能はざるを以て師範學校を擴張して現在一學年一學級なるを一學年二學級とし現在は年五十名宛の卒業生を出すを百名とし尙之に速成科を附設して教員を養成し只教科目に農業商業手工等の如き實科を加へ普通學校に於ける實科教授の任に堪ふるの資格を作らしむ。

▲編輯官の新設　私立學校令實施の結果坊間に行はるゝ教科書の檢定をなすを要し且つ進んで國定の諸教科書を編纂する必要あるを以て新に編輯官（奏任）編輯官補（判任）を置き右の事務を處理せしむ尙私立學校令運用のため學部の事務繁多を加へたるを以て若干の職員を增員する計畫。

以上は明年度豫算に計上さるべき新計畫の重なるものにして尙全國數千の私立學校を監督するため各觀察道に學務主任の主事を任命するの必要あるを以て協議し豫算を請求する筈なりと云ふ但し以上諸新計畫は目下韓國財政困難の場合其の全部を遂行し得るや否や明かならずと云ふ　(完)

法部の明年度計畫

法部の明年度豫算は未だ調査を終らざる由なるも其の計畫の重なるものは本年開廳したる區裁判所十六の外未開廳の九十七區裁判所の開廳及び全國各地の重要なる地點に地方裁判所支部を開設するの二にして支部開設決定せば其の所在地に監獄署を新設するの議ありと云ふ

農工銀行支配人會議

客月廿五日より開會せる農工銀行支配人會議は今尙引續き開會中なるが度支部次官代理鈴木司稅局長が同會議に於てなしたる演說要領は左の如し

今回諸君の會合を求めし主たる目的は銀行合併後に於ける事業の統一を圖るため執務に關する法規の制定及銀行の執るべき將來の經濟方針等に付諸君の熟議を煩はさんとするに在り諸君は腹藏なく意見を吐露し當局者と充分審議せられんことを望む

農工銀行も諸君の細心なる經營に依り今や益々發展の氣運に向ひたるは本官の深く諸君の勞を多とする所なりと雖も尙左の諸點に關しては一層諸君の考慮を煩はさんと欲す其の一は即ち銀行設立の本旨たる農工業に對する放資として從來は國民一般に企業經營の能力を缺げると銀行資本の比較的寡少なるとの二源因のため往々發展を妨げられたる事ありしも政府は曩に銀行の合併を決行し資金の疏通を闘り又各地に金融組合を設立して一方小農に對する貸付をなさしむると同時に一方農工銀行の放資補助機關たらしめたるを以て今後は此等機關と密接の關係を保ち互に協同して其の實績を擧げられん事を望む

其の二は行員風紀の維持に關する事にして當國の如き日常生活上趣味に乏しき處に在りては青年氣鋭の士往々にして風紀を紊ることあり諸君は適當なる娛樂慰安の方法を講じて常に行員の思想向上を勉め品性を陶冶する事に注意せられんことを望む

同會議は尙數日を要する由にて其の諸問事項の主なるものは左の如し

第一、執務內規草案に對する意見

第二、支店出張所監督の方法

第三、金庫事務開始の狀況及將來の意見

第四、農工業の指導啓發に關する實績及び將來の意見

第五、各營業科目に對する本支店將來の方針

第六、送金電信信號草案に對する意見

第七、不動產擔保鑑定規則草案に對する意見

第八、農工資金として投資する事業の經過

十三聯隊の龍山着

第六師團第十三聯隊本部第一大隊は四日夜八時二十五分龍山に着せり尙龍山居留民は停車場にて京城居留民は漢江通り兵營の入口の處に大國旗を交叉し花烟を打揚げて歡迎の意を表せり

稷山金鑛差押

米人デシラ氏と淺野總一郞氏其他の共同經營の稷山金鑛に於ては何等かの事情の爲に去る三日米國總領事の手を以て鑛業用の器械及總ての建築物等を差押へられたり詳細は明日の紙上に報導すべし

京城議員撰擧彙報

▲期成同盟會　今回の總選擧に候補者二十名を推撰したるは決して私心より出たるには非ずして全く主義の爲將公益の爲になしたるものたることは候補者其人とその顏觸に因つても判斷することを得べきなり已に主義の爲公益の爲に候補者を立てたる以上は須らく公明正大の手段を以て全候補の當選を期すべく、彼の二三不平者流が如何なる動作を爲すも決して眼中に置くことなく正々堂々の陣を張りて最後の全勝を期すべしとは某有力者の選擧談なり

▲東部の景氣　去る土曜日までは如何にも靜かなる如く見れたりし東部は一昨日より東部選擧事務所の開設と共に選擧熱大に旺盛となり元老中村氏を始として各豫選候補者諸氏に對する有權者の同情盡力は非常なるものにて大勢如斯なれば結果の良好なるべきは云ふまでもなかるべく偶々一二氣まぐれ者の自己廣告の爲に自稱候補として立ちたるものなきにしもあらざれども素と何等基礎なき運動が奏効すべき筈もなく遂ては夢覺めて後悔するの時來るべき也

▲京城日報の盡力　御用紙京城日報は何の見るところありてか一昨日より社員總出にて不平連の選擧運動に盡力しつゝありとの事なるが若し大岡社長にして不平連に同情すべき理由ありて盡力するならば頼母敷次第なれども只何かの勘違より輕擧を敢てするものなれば幷は以ての外にて何れは御用紙に對し統監府のれ目玉は免かれざるべし

▲西部の模樣　期成同盟會の候補者諸氏は贖を固めて立てり今や何者も之に抗すべからず、某々氏等が何の見るところありて候補に立ちたるかは頗る疑問にして若し騎虎の勢今日の運動を繼續し豫撰會の時の如く開票の曉に於て始めて自己の落撰を知る樣の事ともならば其人々は如何にして世間に顏向けをなすか思へは某々氏の心掛は實際氣の毒に堪へざるなり

▲官吏派の超然　所謂官吏派が今回の總選擧に關係するや否やは世人の疑問なりしが聞くところによれば統監府始め韓國側に勤める諸官吏は一致して超然たることに決したる由にて其理由は官吏として議員撰擧の紛爭中に投せざらんが爲なりと云ふ

選擧人心得

京城居留民團議員の撰擧期日も此三日を餘すに過ぎざるが今撰擧人の心得ふべき事項大要左の如し

一　選擧會場は京城居留民團役所とす

二　投票日時は十月八日午前七時より午後二時迄とす

三　投票用紙は選擧會場に於て之を交付す

四　撰擧すべき議員定數は二十人にて其の半數即ち十名を一投票用紙に連記すること

五　投票は自署すべきこと若し自署し能はざる者は選擧權を有するも自然投票を爲すことを得ざるべし

六　選擧人名簿に登錄せられたるものと雖選擧權なきものは選擧することを得ざるものとす

七　當日投票簿に押印を要するを以て必ず實印を携帶すべきこと

一　實印は投票用紙若しくは封筒に押捺せざる樣特に注意すべきこと

其の他詳細の事項は當日掛員に就き承合すべきこと

許僞の上告審

京城控訴院に於て絞罪の宣告を受け大審院に上告したる內亂罪の巨魁許僞の公判は原來大審院に於ては法律上の審理を遂ぐるものにして此の事件に關しては既に事實を審理するの必要なきを以て公判を開廷せず書面審を以て判決を下すべしと云ふ

韓國の招魂祭

韓國軍部に於ては來る九日南山獎忠壇に於て招魂祭を執行する筈なり

仁商豫算查定會

仁川商業會議所は四十二年度歲入豫算につき七名の查定委員を擧げたるは既報の如くなるが右委員は明日午後一時より商業會議所樓上に於て查定會を開き課金の調査をなす筈

赤十字委員會

豫報の如く昨日午後八時より仁川俱樂部に於て赤十字社仁川支部委員會を開き社員募集の件につき協議せり

南海岸の新漁村

水產組合最近の調査によれば目下朝鮮に於て妻子を携帶して移住せる純然たる日本漁村既に九ヶ村七百四十三人に達し更に今より漁村を建設せむとしつゝあるものを擧ぐれば

▲大漁村の起工　岡山縣よりは特に縣費を以て統營に敷地を買收し建築材料の如き既に積出しに着手したれば日ならずして一大漁村家屋の起工を見るべし

▲筑前村の建設　福岡縣は機張郡に筑前村を建設すべく同地に於ける水產組合所有の土地を借り受け不日建築着手の筈

▲群山沖の漁村　長崎縣は群山前洋約六里開也島の一島を買收して肥前村を建設せんとし同縣當局者實地視察の結果其光明ある將來に屬望して縣會の賛同を待つて近く實行の運びに立至るべし

▲模範的の漁村　和歌山縣は曩に同縣水產組合員試驗場技手等を特派し木浦釜山間の水產事情を查せしめたるが其結果頗ぶる有望なりと認め來年度より愈々模範漁村建設に着手するに至るべしと

晋州の令市

晋州令市は今を距る十二年度即ち慶尙道が南北兩道に分割せられ當地に南道觀察使を置かれてより三年を經し時の觀察使が舊慣に基き管下商民に命じて當地に春秋二季の市場を開設せしめたるに起源し其の市場は初め春秋共に城內に定められしが中頃以降より城外の入民市場の移轉を主張するものを生じ互に軋轢紛爭を見るに至りしを以て光武十年度より春市は城外秋市は城內に開設する事とし多年の紛爭を絕つに至れり

▲例年開市月日　は春市陰曆三月より四月まで秋市同十月より十一月まで

▲最近市場取引の狀況　令市に出場する商人は近くは三南地方より遠きは北韓地方に及ぶ而して是等の商人は各自地方の產物を出品すると共に又當地方の產物を購入して故鄕に輸送するものあり購買者は主として地方人に限られ他道より來るもの極めて少し而して其の取引の狀況は商人と顧客との直接賣買を主とすれども又仲買人の手に依りて紹介せらるゝものも少からず尙取引高に就ては年の豐凶金融の狀態などよりて振否ありと雖も概して出品高の六七分に見て大差なからん昨年秋期市場の出品物價額は十五萬八千九百三十五圓餘なりき

天一銀行上棟式

大韓天一銀行にては昨年來鍾路に同行事務所の新築中なりしが去る四日愈々上棟式を擧行し度支部よりは鈴木次官代理を始め理財局各課長建築所よりは右の設計者たる國枝技師及び岩田技師等臨席せりと云ふ因みに右工事は本年中に竣成の豫定なりと

馬山新報發刊

元京城日報記者たりし鳥越圓城氏の主宰たる馬山新報は愈々去る三日を以て發刊せしが体裁といひ記事といひ地方の新聞紙としては毫も申し分なし記者は馬山浦開拓の爲めに健全なる發達を祈るものなり

木內次官歸任

農商工部次官木內氏は六日東京發にて歸任すべし

若林總監の來任期

若林警視總監は本月七日東京を出發して島根縣に向ひ事務の引繼を完了したる上にて渡韓する由にて當地着任は中旬頃なるべしと云ふ

高瀨副理事官

京城理事廳副理事官高瀨經德氏は近々地方へ轉任するとの事なり

足立氏留任運動

十八銀行仁川支店長たりし足立瀧次郞氏が今回釜山に榮轉することに決したるにつき仁川實業家等は足立氏の留任運動をなす外一兩日中臨時民會を開き之れに關する協議をなす等なりと

東拓韓人歸城

東洋拓殖韓人創立委員三十餘名は昨夜無事歸城したり

辭令

一日付內閣

京城居留民團立高等女學校長　三浦直

任京城居留民團立高等女學校長

休職宮城縣立古川中學校教諭　成田忠郞

任京城居留民團立高等女學校教諭

公人私人

▲大河內輝耕子（馬政局書記官）　韓國へ差遣され三日入京天眞樓

▲青木鐵吉氏（正金銀行神戶支店長）　三日入京巴城館

▲田中穰氏（石川島造船所技師）　三日入京巴城館

▲新明中曆氏（南滿鐵道會社員）　三日出發歸任

▲山田定直氏（衛州守備隊長少佐）　三日出發歸任

▲貞永鐵五郞氏（鎭山海軍採炭部長機關中佐）　四日入京天眞樓

▲富田秀雄氏（海軍機關大佐）　同上

▲中口千代吉氏（海軍技師）　同上

▲河村鍵次氏（同上）　同上

▲遠藤慶三郞（憲兵隊附三等主計）　四日入京山本旅館

▲藤原藤次郞氏（同上）　同上

▲成瀨勝輔氏（同二等主計）　同上

▲安田不二丸氏（統監府技師）　四日鎭南浦へ向け出發

▲中釜健郞氏（步兵第十二聯隊附中尉）　四日龍山へ出發

▲永井繁太氏（同少尉）　同上

近事片々

▲韓人　曰く韓國も佛國が安南保護政策を支那總督監督の下に置きたる如くしては如何

▲滿州に大守を置き韓國は高級理事官をして之に當らしむを以て便宜となさずやと

▲若し滿州に大守を置くとすれば何人を以てすべき伊藤公を大守とするは面白なし

▲大隈伯を起し大守となし滿韓共通の經營をなし大陸發展の大經綸をなさしめよと

▲大隈伯は豫て對清策に就ては大抱負あり

▲東拓　韓國委員等曰く在韓日本人は猛虎の如くなれども在國の日本人は善良なりと聞く此際北京に駐劄せしむるも亦可也

▲兩來　入韓の日本人は善良の者のみを撰されたしと大熱を吹く之れ例の外交術也

▲渠等の外交舌を眞に受けて在韓日本人は不良なりと信ずれば之れ大に誤解たる也

▲啻に未來賤も日本にて同樣の放言したることあり韓人の遺口は總て是也

▲東拓副總裁は亦本田幸助氏也との說あり

▲本田博士は溫厚篤實農事經營には尤も氏の農事に熱心なる或は適任なるべき乎

▲東電は坂谷男藏相たるべしと報ず桂首相の下には此人の藏相は却て妙なるべき乎

▲阪谷男の當地を過ぎる近にあるべし有志相集て經濟上の談を聞かんとす蓋だ結構

▲祖國に於ける馬券問題は大に八ヶ間敷なれり神戶に於ては知事と檢事の衝突あり

▲小山檢事正上京して狀況を具に申告す首相內相法相三頭鳩めて密議を凝らせりと

▲行政官と司法官との衝突はよくあることで岡部法相我大に頭を惱ましつゝありと

▲岡部法相非常に强硬なる意見を持して一歩を讓らず爲に桂首相は大頭痛の体也と

▲此處大に岡部法相の試金石なり行政權に司法權が蹂躪さる如き不面目は斷じて非

▲露紙ノーウオヤウレーミヤ女記者大隈伯に面して例の舌鋒に雄ぎ立てられたり

▲女記者ゴリヤコフスキー其訪問記に感歎して大偉人也と稱揚す左もありなん乎

▲殊に大隈伯が足一歩海外に出でざるに列國の狀勢に通ずる事を指すが如きに服す

▲近頃巷間に雄大のラッパ節謠はるゝけれど膨脹的國民の吟唱するに尤も妙なり

▲駒場を出でゝ二十年今やテキサス大地主秋や小鹿の鳴く頃は黄金の浪が九萬町

▲見渡す限り白雲のアルゼンチンの大原野私の牧場はつかしや僅かに五萬頭

●景福宮內の鹿狩 景福宮內後山に棲息せる鹿近來宮殿附近に出で來りて種々の害をなすを以て皇宮警察にては昨日午後鹿狩を催せり

●酌婦の主人泣かせ(三) サテもツ子は前記北村一座の馬の脚中村千之介と手に手を取つてドロンを極め暫時平壤のある安宿に潜伏中懸て追々と路金も乏くなりたれば又々何れかの料理屋に身を賣らんものをと思ひ定むるに付けても肝心な衣類が龍山の或る質屋に質入れしあるにより早速右の衣類を取り寄せんと其の旨を書面に認め衣類の着次第金を送るべければ一日も早く郵送せらるゝやう申し送りたりしに惡事千里の譬へは覿面にて端なくも右の質屋に此の書面の來りし事が遊樂亭の主人の耳に入りたれば主人はソウかと許りに打ち頷き直に平壤に赴きてツ子の在り家を探り難なくツ子を取り押へたるがツ子は元の古巢に舞ひ戾るは苦とは思はねど縁あつて今日迄一所に苦勞を重ねた中村と別るゝが何より辛く身も世もあらぬ迄に泣き沈みたるが併し之れも前世斯うと定まつた二人の縁と其の場の愁嘆宜ろしくありて立ち別れ難てツ子は主人に連れられて又々龍山にと舞ひ戾りたり斯くする中にツ子は必死の腕を振つて數多の客の生血を吸ひ取つた結果今は大分前借をも返濟し殘る所は僅か三十圓となりたれば此分ならばと勇み立ち又々中村さんと一所となれるも今少しの辛抱と窃かに借金の返濟期を樂みにして稼ぎ居る矢先き主人といふが店の都合上から營業全部を柳といふものに讓り渡すこととなりたるよりツ子は俄かに厭氣が差し實から云へば殘りの借金三十圓をば店の讓受人柳なるものに返濟せずはならぬものをツ子は乙に屁理屈を並べ立て主人が變はれば雇人迄變はるが世の習ひと前主人の道理ある言葉をも聞かず或晚北韓さして逃亡せしが程經て仁川に現はれ同地稅關に職を奉ずる圏藤とかいふ男の妾となり暫しの間身を潛め居りしがお役人の妾奉公は何うやら窮屈で溜らないと許り間もなくソコを出奔して今度は京城支那町の水月亭に住み込みしもお神どの性が何うしても合はぬ所から又々ソコを暇を取り今は西小門通りの立濱亭とやらにデッカイ尻を摑へ居るとかいふ

●花嫁の出奔 南部薰洞詩谷坊三十五統八戶趙召吏(四三)の娘某は本年三月北部齋洞徐相極なるものに嫁せしが其の當坐こそ夫が自分を非常に可愛がり呉れ居りしもダン／＼と月日の經つにつれて飽きが差して來たものと見ぬ振し許りのことを根に持

ちて口八ヶ間敷小言を並べ果ては髻を摑んで撲ち打擲をするにぞ今から這んな有樣では此の先きが思はれイッソ今の中に離別をなさんと思ひツヽ四五日以前窃に家を忍び出で實家に歸りたるに母は娘の不心得を諭しソレはお前が夫の機嫌の取りやうが足りない所からなれば此からは何も彼も我慢をし今から早速先方へ歸るやうにと說き勸めたりしに娘は何うあつても納得が出來ず母の不在を窺ひて何れへか家出し未だに行衛不明なりといふ

●姦婦を見送る未練男 大和町二丁目邊に草葺の溫突がある此家に三ヶ月許り前より夫婦の者移り來りたるが生れは確かとは知らねども熊本の春日とやら妻といふは娼妓か何かの果てらしい如何見ても只者とは思はれぬ女夫といふは先月の末まで或官衙の小使か何かを勤め妻は同町の或曖昧の酌婦を勸め夫婦共稼ぎにて働き居りしも夫婦が同家に引越し來りし以來は毎日奇妙な女ども入り變り立變り出入するので近邊にては如何も不思議な家だ或は今流行する例の婦女誘拐の問屋ではあるまいかと怪しみしこともありたり然るに或日の夜のこと夫が他行して十二時頃歸家したるに家內は黑白も分かぬ眞暗なれば夫は歸りの遲いから多分先きに寢たことだらうと思ひ何の怪むこともなく表よりオイ燈を點ぬかと怒鳴り立たるに此時妻は夫の留守を幸ひに間夫を引入れ樂みの最中なりしかば此聲に驚くまいことか吃驚敗亡し間夫を逃がさんとすれど一方口の悲しさ逃すことも出來ず烏鷺々々して一向に燈を點けざるにぞ夫は益々怒り出し早く燈を點けないかと怒鳴り立るにぞ妻は絕体絶命の聲を絞り出しお客さんがあるからと答へたるに夫は不埒な阿魔といはんばかりに突如飛込み姦夫姦婦を引捕へ此に斷るの突くのと一大悶着を始めたる騷ぎに近所の者は眠ることも出來ず如何なる者かと案じ居りしに如何に話しが纏りたものか二時頃は靜かになり只だ女か男か知らねど表に驅け出したるのみなりしが翌日夫は姦婦に三下り半を渡したものと見へチゲに女の荷物のみを擔はせ同家を立退いたが別るに際し夫は姦婦が立去るを表まで見送り左も未練らしく名殘り惜げに悄然として後姿を眺め居たる態は他所眼にも氣の毒であつたが此日何處へか同家を立退いたので今は只だ草葺の溫突のみ人待ち顏に殘り居れるが能々未練な男と見へる

●宿錢を踏み倒す 住所不定朴某南部屆洞宋徵の兩人は過日より弘門洞三十四統金銀淳なる宿屋に泊り居りしが宿錢不足なるより兩人は金に向ひ現に自分等の所持せる木綿を賣り拂ひたる上不足の分を支拂ふべければソレ迄待ち呉れよと賴み入りたれば金も承知せしが軈て兩人は件の木綿を賣りに行くと稱して外出せしまゝ歸り來らず

行衛不明となりたるより金は其の筋へ訴へ出でんと思ひ居る矢先き一昨日午後十時頃金は圖らずも自宅の前通りで來の通行し居るを認めたれば直ぐさま引つ捕へ警察署に引き渡したり

●頭から水を浴せらる 山口縣平民本町七丁目白石方同居大工職光富虎之助といふ出齒主義の男は三日晚酒に一杯傾け上機嫌となりて出齒主義を鳩甫屋にて實行せんと本町一丁目裏通りの路次に這入りカルボ屋のある方面に向ひ進行中チャンコロが二階より洗ひ水を捨てたるにぞ何ぞ堪まらん虎公の頭からズブ濡れに浴せられ兩眼カッと開きて怒り出し早速此旨南部警察署に訴へ出たり

●日の出町のボヤ 一昨日午後十一時頃日の出町三十二番戶警務局警部寺島才二郎方物置より出火したるも近所の人々驅付け直ちに消止めたれば大事に至らざりしは幸ひなりし出火の原因は明治町一丁目荒木長八方山口縣平民鐵葉職宮本土藏外二名が家根の雨樋修繕に使用せし炭火の飛びたるよりなりと

●コック雇人を打つ 旭町二丁目不知火旅館のコック大西新吉(二六)が一昨夜十一時半過明治町の四辻にて韓人を毆打し居るを巡査之を認め取調べんとせしに新吉は直ちに逃げ出せしにぞ巡査は之を追跡し三丁目伊藤組前にて追つき捉へ取調べしに韓人は同館雇の盧元景といふものにて當夜は來客多く非常に多忙を極め居りしにも拘らず酒に醉つ拂ひて用事をなさず外出したれば斯く毆打したるなりとのこと判り嚴重に說諭の上放還さる

●チョンガーの怪我 一昨四日午後十一時頃東大門內祥北洞車夫朴昌原(二八)が一人の客を乘せ鐘路通りをば勢よく疾走中向ふより一輛の荷馬車來りしを朴は更に氣が附かず頓てアハヤといふ間に避けんとする際車軸と車輛とがカチ合ひたりし其の際西部貞洞朴仁植の倅(六つ)が中間にはさまり右耳に輕傷を負ひたるが元々過失なれば其の場は無事に濟みたるも倅の親爺が承知せず目下ゴタ〳〵中なりと

●醉狂一束 南部后洞金洞四十九統九戶南道明(六十)は平常より至つて酒癖惡しき男にて此れ迄も酒を喰らつては罪咎なき他人に喧嘩を吹つ掛け其の度毎に警官の厄介になること屢々なりしが去る三日午後七時頃又候兼ねて懇意になし居る隣家の酒店金昌鎬方に至り鱈腹飮み喰せし結果非常に酩酊せしはよきも間も無く例の癖を擡げ出し雇人の

金龍鉉に向つて惡口雜言の有り丈を並べ立てし揚句同人の腰骨を強かに毆打せしかば金は其の旨警察へ訴へたれば南は引致せられたり▲住所不定の金明善なるものは去る三日午後九時頃泥の如く銘酊し南部仁峴通りを通行中折柄第洞光南學校學生白南徹が向ふより來掛る所を金は物をも言はず同人を毆打し結局巡査の出張を煩はせしも酒の上の事なれば將來を戒められ其まゝ放免ぞられたり

●錢なしの蝎甫買 龍山住千葉縣平民奥田谷吉(二九)といふ出齒り者は三日の夜醉に乘じ蓬町一丁目のカルボ屋姜永祚宅に至り一圓にてカルボを買ひ闌燈影暗き所ならぬカンテラの影暗き溫突にモグリ込み怪しき夢を結びたるが扨て玉代勘定の段となるや懷は空の尻冷たく金氣とては白銅一文もなければ以前の夢は何時の間にか覺め果てゝは只だ眼ばかりハチクリさせ居たるも斯くては埒明かずと自己が冠りし帽子と浴衣を抵當に預け置き其夜は一先引取り翌夜帽子に衣類を受取らんと同人宅に至りしに永祚は不都合にも言葉を左右に托して物品を引渡さゞるにぞ谷吉は怒りて有合せたる煙管を以て永祚を毆り付けたる騷ぎに警官出張し取調の上双方說諭を加へ谷吉の衣類等を引渡さしめて事濟みとなれり

●新町だよ ▲皆春樓の小町は此の間好うちやんの跡を追ひ掛けて平壤に隨德寺を極めたが今更ら元の古巢に歸るのも面目なしとて今回同地の某樓へ鞍替へしたり又同樓の福助と〆吉の兩妲も平壤に赴き同地の平壤樓から次に又同樓の梅子は直き眼の前の龍山へ鞍替へしたり▲南山樓は裏手に增築中にて近々中に大發展を爲すべしと▲山遊樓の雪子は昨今飴谷といふ甘い男の外にハイかつた情夫を拵へ本は何方にしやうかと思案中の由なり▲第一樓の君子は大事な所に寫び虱が湧いたので毎日鷄粉で治療を加へ居るとかの由▲淸月樓の靜子は誰の胤ともつかぬ雜種の塊を宿し目下姙娠六ヶ月なりとはヤレ〳〵

●九月の流行病 九月中に發生したる赤痢は八名にして腸窒扶斯は十名內死亡者三名なり又九月迄の患者統計は二百十九名にして內全治者百四十四名內死亡者五十六名なり

●腸窒扶斯 京城南山町二丁目百七十二番戶西村五百三は四日腸窒扶斯に罹り青坡病院に送らる

●しん福の開業 本町六丁目有明樓支店跡に開業した、しん福の會席料理は食道樂連中が咽喉を鳴らして讚美して居るとの評判なれば斯道通の見逃がすべからざる所ならん

●無料紹介欄休揭 記事及び廣告の輳輻にて本日休揭す

●京城座の場割改正 京城座にては木戸錢入らずの四十錢均一なりしが今回更に場割を一等二等とし一等は三十錢上等は二十五錢枝敷は二圓及び一圓に改めたり

●壽座替り狂言 同座木村一座本晚の替り狂言は「巳が罪」全七幕にして場割は左の如し
學校門前、小枝子宅、千田木瑕住居、モリソン教會堂、向島枕橋、野崎敞宅、天下茶屋、岡田病院、塚口ノ宅、福住座敷、同家奥庭、箱根玉簾ノ瀧、房洲海岸兜岩作兵衛宅、海岸二兒の墓標
重なる役割は左の如し
箕輪環(野村)大木小枝子(石井)園山た島(高尾)子爵櫻戶隆弘(內藤)野崎歌子(上田)乳母れみの(矢野)園山爵(松村)前田晋吉(富士井)六鄕乾(寺田)箕輪傳藏(佐海)女中たきぬ(花井)塚口虎三、漁師作兵衛(木村)

●客氣が深いに就て 四日の紙上に揭載せし南大門外運送店云々の記事は何かの間違なる由にて氣質の合はぬ某の惡戲に基く投書にて決して本人には左樣の事なく又房子などいふ者は聞いた事も見た事もなきとの事につき取消す

●天氣豫報(自五日午後六時至六日午後六時) 晴れ後曇り
五日午前六時各地氣象概況 高氣壓は尙滿洲附近にありて一般に風力弱く曇天の所多し

新講談

女俠秋瑾の傳（六）

…るに茲に一葉の寫眞があつて、其の寫眞に寫し出されたる人物は同じ中流以上の支那婦人でありながら、頭に束髮に結び首に襟掛けを纏ひ、身に日本服を着、書生羽織を被り、手に手套を裝し、足に皮靴を穿ち而かも右手に明燦々たる日本刀の匕首を持つて居るものでありますれば、諸君はこれを何んと御覽になりまする。

『妾は弱女子を以て絶身萬里を走り、學を求めて往返す、其の船に搭ずるや三等室に在りて苦力と雜處す。長途暑に觸れ一病幾んど起たざらんとする時、顧りて以て自ら衞る所のもの唯だ此一口の劍のみ。[illegible]曾て一日も相離れざりき』

なぞと云つて自作の寶刀歌を吟詠し、日本風の劍舞をなすに至つては、諸君果して之れを何んと仰しやいます。

それから各種の科學には通ずるし、詩は作るし支那語……イヤ支那人が支那語の出來るのは當然ですが……日本語、の出來れば英語も操つる、酒も飲み……否酒も飲み馬にも乘り、財を輕んじ、義に厚く、豪縱氣を尙び、議論風發と云ふやうに頗る口辯があるので、海内の名士が往々刺を投ずる者があつても、却つてこれを斥けて、交りを下等社會窮乏の徒に結ぶと云ふ女があらば、諸君は果してこれを何んと思ひになりまする。

此の當世にあり難き變り者、彼の浪六の口を籍りて云へば、叩けばカンと音のする横紙破りの女俠は、秋瑾女史其の人でございます。秋瑾、字は璿卿、競雄と號し、又た自から鑑湖女俠と號しました、素と浙江省山陰縣の人で、現任黑龍江巡道秋洞琛の孫に當りますとか、父が河南の知府であつた時、同じ河南の某高官の子に婚嫁き、琴瑟相和するど云ふ奴で、二人迄子を產んだ。秋瑾が普通尋常の女であつたならば、これで事なく生涯を送ることが出來ましたらうが、此の秋瑾は時世が產んだ變り物、何時の頃よりか所謂新學に凝り出した、サアそれが所天の氣に入らない、所天は何分支那的模型から鑄出された代物、他から「貴國之時局如何」と問はるれば「可嘆中國之事」位答へるが關の山、それが何うして秋瑾の氣と合ひませう、毎に所天は秋瑾に向つて、

「婦人の言論甚だ激烈、人の妻たる者に似ず戒めざるべからず。」

を繰返すが、女房秋瑾却々そんなことでは閉口しない。其處は素養が物を云はせて、反對に所天を凹ますこともあらうと云ふもの、それが度重つて來れば夫婦の間が妙になつて、遂に定まりの破鏡の嘆、併しそうなつても秋瑾は秋瑾だ、尋常の女のやうに女々しいことは云はず、頗る大きく支那的に出掛ける。

●新聞料 ▲一枚金二錢 ▲一ヶ月前金五十錢 ▲三ヶ月前金壹圓四拾錢 ▲六ヶ月前金貳圓 ▲郵稅一ヶ月金拾錢
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回四十錢 ▲特別 ▲二號活字十九字詰一行金五十錢

發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城新聞社 京城南大門通 電話六三番